

人生ハンド仏句

第123号

H. 24. 6. 1
(毎月1日発行)

日蓮聖人の生涯 ④

「四大法難」

住職 谷川 寛俊

日蓮聖人の生涯は、激しい法難の連続といっても過言ではありません。

三七歳の「立正安国論」の幕府への提出から五十歳の「竜口(りゅうこう)法難(二、二七一年)」に至る十三年間、さらに約二年半にわたる佐渡流罪がよく知られています。「少々の難は数知れず、大難は四ヶ度なり」とみずから述べられているように、聖人は当時の人々が現状の苦しみから一刻も早く逃れたいとして浄土教に心を寄せたのに対して、法華經こそ末法の衆生を救う唯一の教えであると主張し

た為、様々な迫害にあわれたのでした。

立正安国論で真正面から批判された念仏者たちが、文応元年八月二十七日の夜、鎌倉松葉谷(まつばがやつ)の日蓮聖人の草庵を大挙して襲い、焼き討ちにしたのです。①松葉谷の法難。聖人はかくも難を逃れましたが、白猿が聖人に危険を知らせ、安全なところに導いたという伝説が残っています。

聖人は、ひとまず下総(千葉県)の大信者である富木常忍のもとへ身を寄せ、この地を中心に布教を進められました。この松葉谷の焼き討ちは、聖人の不動の念を強めこそすれ、決して崩すことは出来ませんでした。かえって「末法に法華經の行者、必ず出来(しゅらい)すべし。但し、大難来たりなば、強盛(こうじょう)の信心(しん)いよいよ悦びをなすべし・・・大難、なくば法華經の行者にあらず」

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

と聖人は述べられ、法華經を身をもって読む喜びとして受け止められたのです。

やがて聖人は弘長元年(二、二六一年)の春再び松葉谷の草庵にもどられ、鎌倉の諸大寺を相手に論争を展開しました。しかし社会的不安を増大する危険人物として幕府は聖人を捕らえ、同年五月十二日伊豆流罪にしたのです。②伊豆・伊東の法難。

伊豆の伊東では、地頭の伊東祐光(すけみつ)や舟守弥三郎らの帰依を受け、伊東の配所に過ごすこと一年九ヶ月、弘長三年(一、二六三年)二月二十二日赦免されて鎌倉に帰られました。再び鎌倉で活動を開始した聖人は、翌文永元年(一、二六四年)、母の病氣回復を祈るため故郷の安房に帰り、祈りによって悲母の寿命を三ヶ年伸ばされました。ところが、十一月十一日に工藤吉隆の招きを受けて天津小湊に向かう途中、松原の大路で東

条影信らに襲撃されたのです。

③小松原の法難。東条影信は、清澄寺における聖人の念仏破折以来、聖人を阿弥陀の怨敵(おんてき)として常に襲撃の機会を狙っていたのです。聖人の一行は十人ほどで、防戦に立つ者は三、四人。聖人を守って奮戦しましたが、たちまち切り伏せられ、弟子の鏡忍房(きょうにんぼう)は討ち死に、急を聞いて駆けつけた工藤吉隆も命を失ってしまいました。しかし工藤吉隆らの働きによって、聖人は眉間(みけん)に傷を受けましたが一命を取り止める事が出来たのです。

以下次号



お知らせ



◎大黒尊天祭

六月二十四日(日)

ご法話 午後一時半

経妙寺住職

真成寺副住職

谷川寛敬上人

大黒尊天法味言上

並びに法樂修法

・午後二時半より

参詣者お一人お一人への特別御加持祈祷。また、福引・ビンゴゲームと盛り沢山。
今年の特別賞の行方は？
大黒様も年に一度の里帰り！
お待ち申し上げております。

◎毎月一日祈祷会

・午前五時から

早朝のお参りは気持ちの良いものです。
ご祈祷を受けて、霊神符（お守り様）を頂きましょう！

◎水子供養会

・毎月十三日 午後一時半より

◎唱題行脚

・毎月二十八日

・午後一時半より

五月二十八日は、午前中激しい雷雨。行脚はどうなるのかしら？と不安に思っておりましたが、今月もご加護がありました。皆さんカッパを着て完全防備で出発しましたが、お日様が覗くほどの良いお天気に成り、途中でカッパも脱ぎ捨て回って参りました。
感謝！感謝！です。

先月の参加者

谷川寛敬・伊藤宗治・土居可久子・高岡富美子・吉岡忠信・阿閉江里子・野田信孝・谷川久仁子

※ 地鎮祭・新車・新築・

改築のお扱いは、秘妙五段

の特別祈祷で、いつでもお氣

楽にお申し込み下さい。



ご招待



環水公園ハワイアン

フェスティバル

・6月2日(土)

AM10時～PM6時20分

富岩運河環水公園野外劇場

(雨天の場合は、

サンフォルテ2階ホール)

私達ラニ・フラ・ホアの出演時間は、6時から6時20分です。
お時間が許せば、ご来場下さい。